

図3 買物店舗 (回答総数に対する割合)

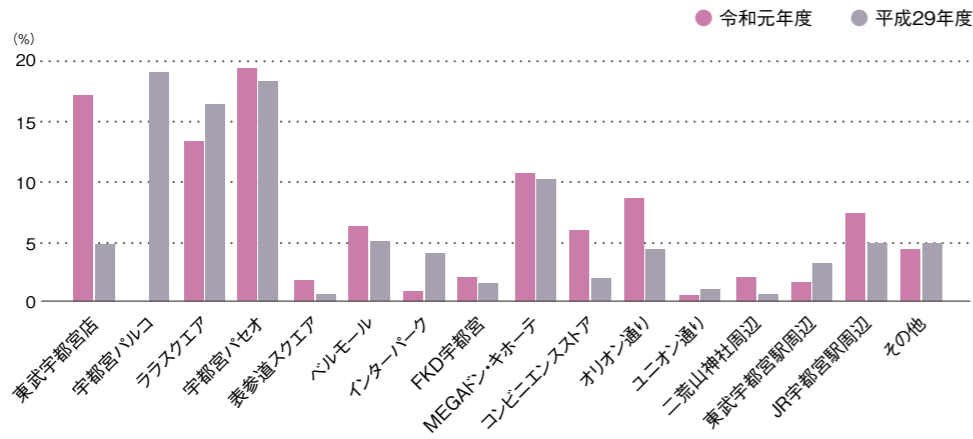


図4 オリオン通り来街目的

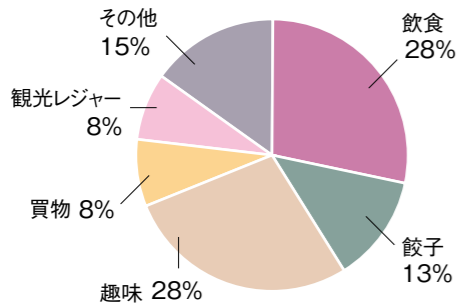
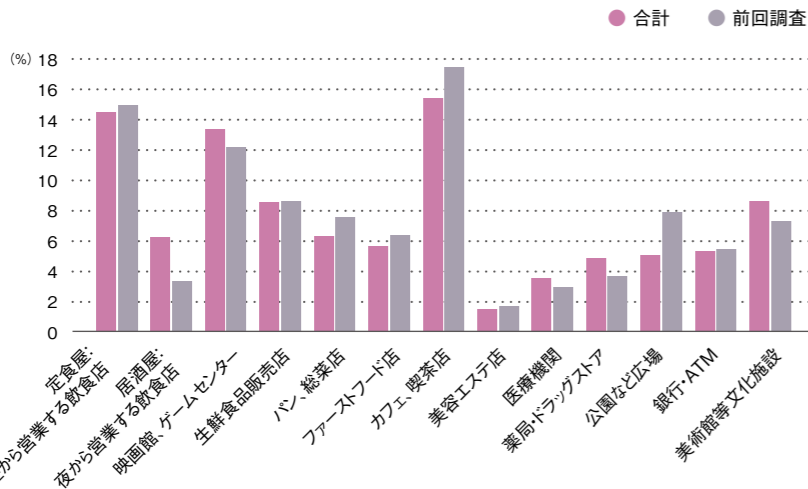
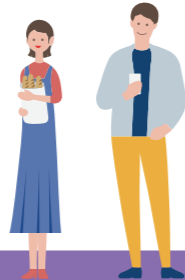


図5 商店街に欲しい施設



中心市街地の通行量について

本調査と同時期に宇都宮市が実施した通行量実態調査の結果について、提供された速報値によると、数字はほぼ横ばいとなりました。その中で「オリオン通り」を中心とする商店街地区の通行量が低下している一方、JR宇都宮駅周辺地区が増加傾向になります。



2 主な来街目的は?
来街目的は「買物」「餃子」「飲食」が多く、特に飲食目的の回答が増加した一方、買物目的は減少傾向となりました。複数回答の来街目的から「餃子」を含む回答を集計すると「日曜日」が多く、特に

3 主な購入場所は?
県内からの来街者の購入場所は「宇都宮パセオ」「東武宇都宮百貨店」「ララスクエア」「MEGAドン・キホーテ」など、大型商業施設が上位を占めます。中心商店街では「オリオン通り」「JR宇都宮駅周辺の店」などが上位に入りました。

年齢が多く、特に男性利用者の割合が高くなりました。
● 全世代を合計した男女別利用店舗では、女性の1位 宇都宮パセオ、2位 東武宇都宮百貨店、3位 ララスクエア、4位 MEGAドン・キホーテの順でした。男性は1位 東武宇都宮百貨店、2位 ララスクエア、3位 MEGAドン・キホーテ、4位 宇都宮パセオでした。

4 中心商店街に足りないもの、ほしい施設は?
「商店街に足りないもの」の問いに対しては「品ぞろえ」「入りやすさ」「価格の安さ」「営業時間の長さ」が多くを占めています。
● 「商店街に欲しい施設」については「カフェ・喫茶店」が最も多く、次いで「昼営業の飲食店」「映画館等娯楽施設」「生鮮食品店」「美術館等文化施設」となっています。

【調査日】
7月28日(日)、29日(月)
午前10時～午後7時
【調査地点】
旧宇都宮パルコ前、
JR宇都宮駅東西自由通路
【調査人数など】
調査人数は7月28日(日) 185人、同29日(月) 200人、総数385人でした。
● 「旧宇都宮パルコ前」198人、「JR宇

1 来街者の居住地は?
大半が宇都宮市内。調査地点別では「県外(首都圏)」の比率は「JR宇都宮駅」で高く、「宇都宮市内」「県内(宇都宮市以外)」は「旧宇都宮パルコ前」地点で高い傾向があります。

都宮駅東西自由通路」187人。
● 男性204人、女性181人

調査結果



にぎわいを生み出すイベント(写真はミアジャズイン2019)

特集1 令和元年商店街来街者実態調査

来街目的は「買い物」「飲食」、
パルコ撤退の影響は限定的
課題はJR宇都宮駅周辺と
二荒山神社周辺の回遊性



図1 来街目的 (複数回答)

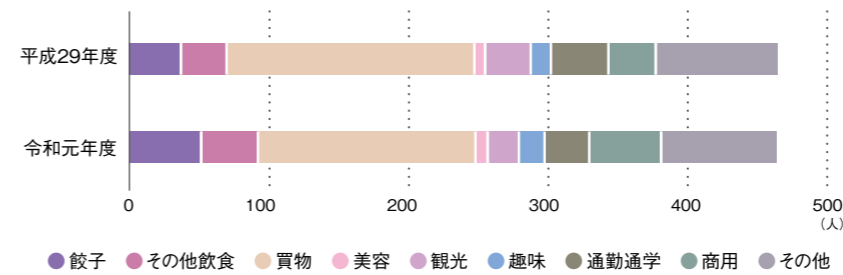
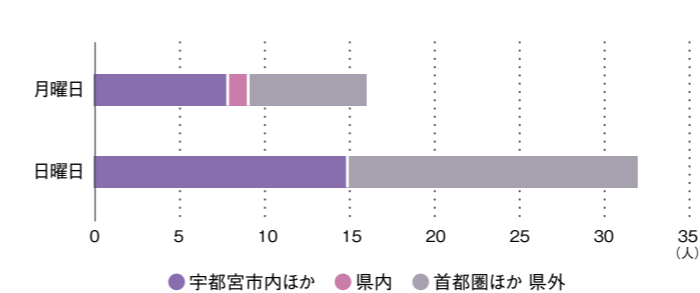


図2 来街目的に餃子を含むもの (曜日別・居住地別)



当所は中心商店街活性化のデータ収集などを目的とした「商店街来街者実態調査」を隔年度で行っています。本年7月に実施した最新の調査結果概要がまとまりましたので、主要な内容をご紹介します。元になった「令和元年度商店街来街者実態調査の分析」は、当所ホームページからダウンロードできます。

● 消費者購買動向と商店街・事業者の取り組みについて

調査結果から、市内からの来街者が約60%、仕事・通勤通学目的を除く曜日別来街者居住地では、いずれも約60%が市内からの来街となっています。買い物目的の来街者に絞ると、宇都宮市内居住者の割合がさらに拡大します。

買い物の内訳は、食料品が曜日に問わず底堅く、日曜日には日用雑貨の割合が高まっています。買い物場所については来街者の多くが大型商業施設を利用しており、オリオン通りの利用目的も「飲食」「趣味」が主で、買い物目的客が少ないことも明らかになりました。

「食料品」は自宅や職場から近い便利で購入し、「非食料品」は品ぞろえや価格を優先して、多少遠くとも車でアクセスしやすく、かつ一カ所で買い物が済む郊外モール等が利用されている傾向があります。

宇都宮市の総人口は10年前に比較して103.3%増加していますが、年齢区分別では64歳以下が減少し、65歳以上が大幅に増加しています。本庁地区に限っていても65歳以上が24.3%と高齢化が進んでいます。この傾向は今後さらに進むと考えられますので、中心部商店街で事業を営む方は、これら調査結果や市場環境変化を考慮した取り組みが不可欠でしょう。

● 回遊性について

本調査結果や通行量調査資料から
 ・宇都宮市中心部はJR宇都宮駅を中心としたエリアと、オリオン通りや東武宇都宮百貨店を中心とした中心部商店街地区の2つのエリアがあること
 ・JR宇都宮駅の通行量が増加している一方で、パンパ通りなど一部の中心部商店街の通行量は減少していることが分かりました。

2つのエリアの回遊性の向上を期待したいところですが、現状ではJRでの来街者が二荒山神社周辺へ回遊する意向は低いようです。

これから「パルコ跡地の活用」や「LRTのJR宇都宮駅西口への延伸」「JR宇都宮駅東口整備」など、今後の来街者の行動に影響をおよぼす事業が計画されていることを踏まえ、これまで以上に多彩なイベントの開催や、歴史・文化資源を磨きあげるとともに、商店街や事業者のさらなる自助努力など、回遊性を高める取り組みが必要になると思われます。



(一社) 栃木県中小企業診断士会
 副会長
 須田経営相談所 所長
 須田 秀規さん

今回の来街者実態調査結果を踏まえて



宇都宮パルコ閉店(令和元年5月)

7 LRT利用の意向は?
 LRTの利用意向については「積極的に利用したい」「機会があれば利用したい」とする割合が総じて高く、調査地点別では「旧パルコ前」のほうが「JR宇都宮駅」よりも高い結果となりました。

● 利用したいと回答した割合はJR宇都宮駅西口への延伸時にさらに高くなるっており、この結果は、延伸を期待する表れと受け止められます。駅から中心部商店街エリアへの回遊性向上も、期待できます。

8 JR宇都宮駅東口新施設の利用は?
 新たに整備が予定されているJR宇都宮駅東口の新拠点施設について「積極的に利用したい」「機会があれば利用したい」とする回答がJR宇都宮駅で91%、旧パルコ前で88%でした。

9 キャッシュレス決済に関する意識は?
 調査当日のキャッシュレス決済利用の割合は、年代別では50代・40代の中年層が比較的高い割合で利用しており、次いで20代・30代。60代以上の高齢者も25%前後利用していることが分かりました。

今後の利用については、全世代で「かなり増える」「やや増える」と回答しており、今後キャッシュレス決済が急速に進むことが予想されます。



5 宇都宮パルコ撤退後の来街頻度と跡地に欲しい施設は?
 令和元年5月で撤退した宇都宮パルコについて、撤退後の来街頻度と跡地に欲しい施設(店舗)を聞きました。

● 宇都宮パルコ撤退後の来街頻度は「変わらない」が多かったという結果になりました。「やや減った」「かなり減った」

の割合を年代別にみると、20代・30代など若年層を中心に高くなっています。60代も高い値を示していますが、パルコ店内に当該年代に支持されるテナントがあったと考えられます。

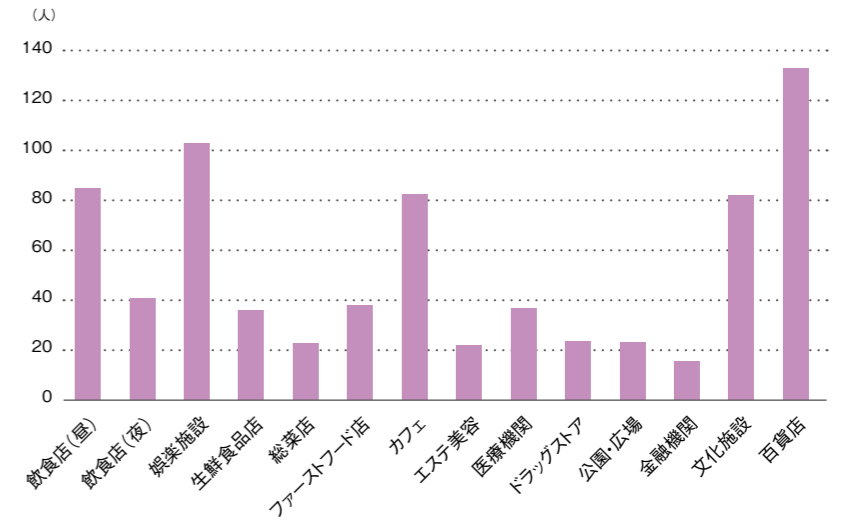
● 宇都宮パルコ跡地に欲しい店舗・施設については「百貨店」「娯楽施設(映画館等)」「昼営業する飲食店」「カフェ」「文化施設」などの回答が目立ちました。

6 JR宇都宮駅と中心市街地の回遊は?
 2つの調査地点で、相互の地区への回遊性を聞いたところ「JR駅→二荒山周辺へ回遊する」意向は「いいえ」が64%でした。一方「二荒山→JR」では「いいえ」は52%でした。JR宇都宮駅周辺の来街者は来街目的を駅周辺で済ませる傾向であることがうかがえます。

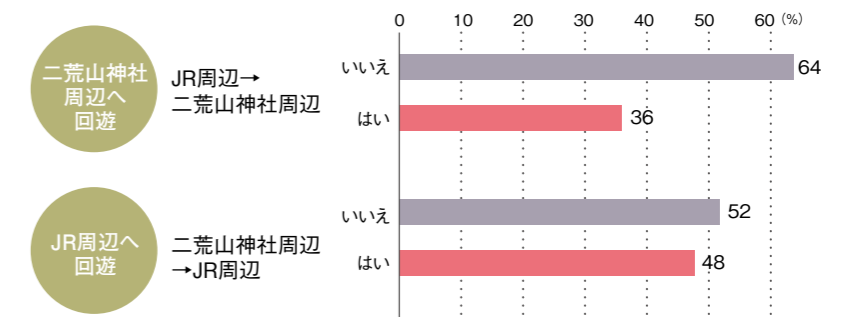


平成30年5月のLRT起工式

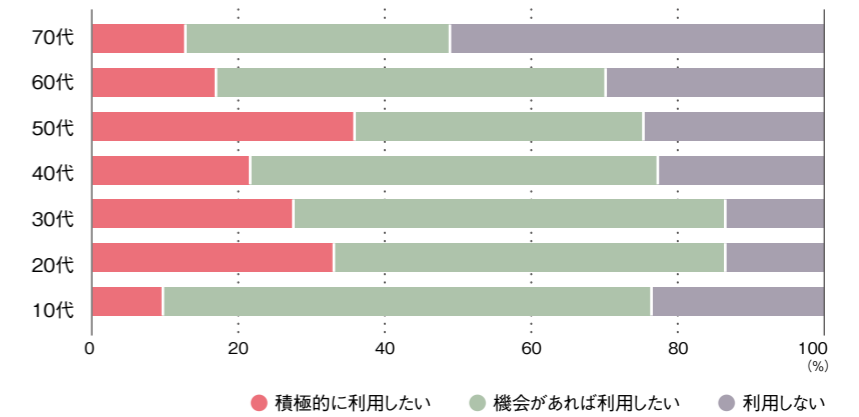
パルコ跡地に欲しい店舗 (複数回答) 図6



調査地点からの回遊意向 図7



LRT利用意向 図8



LRTの西口延長時の利用意向 図9

